

都道府県別

日本の伝統文化

国土地編集部／編

③ 中部



国土地

都道府県別

日本の伝統文化

③ 中部

国土社編集部／編



国土社

日本の伝統文化 ③中部

「目次」

●コメと酒どころの新潟県

伝統工芸	本場沢	4
コラム	最高級品の「越後上布」って？	5
郷土料理	のっぺい汁／へぎそば／笹寿司	6
祭り	むこ投げ	7
なぜ？ どうして？	どうしておむこさんを投げるの？	7
芸能	糠子舞	8
民謡	佐渡おけさ	8

●雄大な山と海の富山県

祭り	出町子供歌舞伎曳山	10
芸能	越中の稚児舞	12
伝統工芸	越中和紙／井波彫刻	13
郷土料理	ます煮し／ぶり大根	14
民俗	越中おわら	15

●工芸王国、石川県

伝統工芸	金沢箔	16
	錦登彦／加賀友禅	18
祭り	あはれ祭／金沢百万石まつり	19
郷土料理	治部煮／かぶら煮し／いしる料理	20
	ご当地グルメ 各地でつくられる「魚屋」	20
芸能	尾口のてくまわし	21
民俗	能登豊年節	21
伝統の再発見!!	歴史と文化が息づく小京邸 金沢	22
	なぜ? どうして? 「小京都」ってどんなところ?	23

●産業が発展する福井県

祭	り	歌舞まつり	24
芸	能	水海の田楽・能舞	25
なぜ?とどうして?		行幸の前に行われる「別火」	26
郷土料理		越前おろしそば・さばのへしこ	27
伝統工芸		越前和紙・越前焼・若狭めのう細工	28
民謡		三国節	29

一端に伝統文化を学ぶ仲間たち



りゅうやくん
みんなのリーダー。あらゆるものを人より先に賢く見て、伝えることが好き。



たくみくん
一歳跌しはじめると止ま
らない歴史を学ぶ。



そういちろうくん
どんな話も勇心して聞く
ので、たくみくんの話し
相手にさせられている



なおやくん
ちょっとしたことでも聞く
よ。配性。羽黒の鼻は動



たいきくん
基本的にみんなの機嫌に
ついて歩く。自虐的な
性格。



ありさちゃん
おまけで私の重なりなので、
みんなから愛られている



さゆみちゃん
あらゆる人の秘密を知り
ては、1人ではなくそ翼人
でいい。



まみちゃん
いやなことがあっても、
「映画を見るとすぐに忘れて
しまうからね」



はるこちゃん
何かを飲んでいるように
おは回を過ぎている。



れなちゃん
ファッション誌編集者
の暮らしや研究家

●甲州文化の山梨県

芸能	天津司舞	30
郷土料理	吉田うどん・ほうとう・煮貝	32
祭り	河口湖湖上祭、吉田の火祭り	33
伝統工芸	甲州水晶・青石細工 甲州印伝／甲州手彫印墨	34
民謡	馬八郎	35
伝統の再発見!! 自然が育む山梨祭の伝統文化		

●緑豊かで美しい長野県

郷土料理	鯉料理／おやき	38
コラム	そばのルーツ「信州そば」	39
伝統工芸	松本家具／信州打刃物／内山紙	40
芸能	南宮の神事芸能	41
祭り	御柱祭／新野の雪祭り	42
民謡	木曾節	43

●日本のまん中、岐阜県

祭り	古川祭／高山祭	44
伝統工芸	美濃和紙／一位一刀彫／美濃焼	46
コラム	茶の湯が生んだ美濃焼を代表する「桃山陶」	47
郷土料理	栗きんとん／柿葉みそ	48

コラム「五平さん」? 「御幣」?

諸説いろいろ「五平餅」	48
芸能 能郷の能・狂言	49
民謡 郡上節・古調川崎	49

●東海道の宿場、静岡県

芸能	西浦の田楽	50
コラム	厳しい戒律で受け継がれる神事	51
郷土料理	うなぎの蒲焼き／桜えびのかき揚げ	52
ご当地グルメ	静岡おでん	52
伝統工芸	駿河竹千筋細工／駿河籠人形	53
祭り	掛川大祭／浜松まつり	54
民謡	ちゃっつき節	55

●産業が盛んな愛知県

伝統工芸	尾張七宝	56
コラム	国産を極く留輪	57
	有松・輪島絞	58
郷土料理	三河万歳	58
郷土料理	ひつまぶし／きしめん・味噌煮込みうどん	59
祭り	花祭	60
民謡	岡崎万石	61

この本の見方

伝統文化の内容を示すアイコンです。

地域のおもしろい方言を紹介しています。



→ P58.

関連することやくわしく書いてあるページ
「→」はそれぞれの巻、P. がページが記されています

本文で出てくるむずかしい言葉を説明しています。

●アイコンについて



国が認めた伝統工芸品を中心とし、芸術的価値が認定されている伝統工芸品を紹介しています

国や各地域が指定している「重要無形民俗文化財」や「重要無形民俗文化財」などを紹介します

郷土料理が盛んな「郷土料理百選」を中心に、各地域で愛される郷土料理を紹介します。

各地域を代表する祭りを紹介します

各地域で歌われる、民謡から知られている民謡を紹介します



に ほん かい ぞ ほそ なが けん
日本海沿いの細長い県

さけ にい がた けん コメと酒どころの新潟県

おほく のちう ぐうせつちう さい
多くの地域が豪雪地帯で、冬になると、
あふ せ せふさう せん だん とう ぐうせつちう けん
農家の副業としてさまざまな伝統工芸品
がつくられました。げんざい は、ゆき だけ 水を
りよう した コメ や 酒 づくり が 盛ん に行われています。

たいよう
太陽がかがっほいなあ！
(太陽がまぶしいなあ！の意味)



ほん しお さわ
本塩沢



先に糸を染めてから織る「先染」の技法がわかります。
先染で織られる織物には、京都の「西陣織」(→P58、P16) などがあります。

●さらりとした風合い「本塩沢」

越後(今の新潟県の本州部分)は、織物の一大産地。小千谷市、十日町市、南魚沼市塩沢一帯は、織物の産地として1000年以上の歴史をもち、それぞれ地域の特色豊かな織物がつくられています。1年の半分以上を雪に閉ざされたこの地では、農作業のできない時期に収入を得るため、女性たちが麻の織物を織りあげたのが

はじまりといわれています。

南魚沼市塩沢地域および六日町地域でつくられる織物には、麻の「越後上布」、絹の「本塩沢」「塩沢織」「曾塩沢」があります。古来より「塩沢お召」の名で親しまれている「本塩沢」は、生地に「シボ」と呼ばれる凹凸があり、さらりとした肌ざわりが特徴です。

本塩沢ができるまで

「本塩沢」の特徴は、もともと麻でつくられる絹の技術を絹織物にいかした点です。ヨコ糸に強撚糸と呼ばれる強い糸をかけた糸を使用し、織りあげた後に

薄の中でもむくことで、よりがもどる力を利用して「シボ」という凹凸をつくり出します。本塩沢のさらりとした肌ざわりは、この「シボ」がつくり出しています。

① 染色



絹糸は「シボ」を出すために1メートルにつき、約に2200～2500回転のよりをかけ、伝統的技法で色をつけます。

② 整終



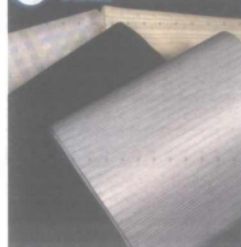
図案に合わせて、必要な本数、長さなどをそろえ、タテ糸とヨコ糸の位置を正しながらたく巻きあげていきます。

③ 織り



織機と呼ばれる織機で、部分的に染め分けられた糸を使い、タテとヨコの柄を合わせながら織りあげます。代表的な絹織物として「竜甲織」「千尋」(注)があります。

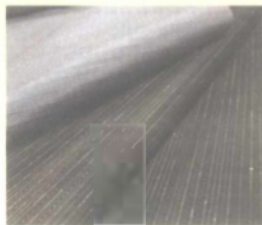
④ 完成



シボを出すため、お通の中で布を手でもみます。仕上げをして完成。パステルカラーで色づけされた糸が最後は白無地に なります。

最高級品の「越後上布」って？

「塩沢」の織物には、「本塩沢」以外に、ユネスコの無形文化遺産にも登録された「越後上布」という織物があります。夏の織物として最高級の麻織物ですが、現在では後継者の問題や原料生産の難しさなどの理由から、近い将来絶える織物となることが心配されています。このほか、越後上布の技術を絹織物に取り入れた「塩沢絹」、涼感あふれる絹製の織物「豊塩沢」があります。いずれも越後の代表的な伝統織物です。



塩沢絹



のっぺい汁／へぎそば／笹寿司



●とろみでからだが温まる「のっぺい汁」

「のっぺい汁」は、主に正月や祭り、祝い事や葬式などでつくられる料理で、「のっぺ」などとも呼ばれます。名前の由来は、汁がねばって餅のようであることから、ぬらりとしていることを意味する「ぬっぺい」がなまって、「のっぺい」になったといわれています。

サケやかまぼこ、サトイモ、ニンジンなどたくさんの具材をダシ汁で煮て、しょうゆで味つけし、サトイモから出るとろみだけでとろみをつけて食べます。汁がたっぷりだったり、少なかったりなど、地域によって異なります。

●海草をつなぎにした「へぎそば」

「へぎ」という箱に1口分ずつ並べて出されるので、「へぎそば」と呼ばれます。小千谷市では古くからそばがつくられましたが、へぎそばは、そば粉をつなぐ「つなぎ」に、「ふのり」という海草を使っています。そのため小麦粉をつなぎとしたそばよりもコシがあり、独特の歯ごたえがあります。ふのりは、「小千谷産」という麻織物を織る時に、糸をピンとはるために使われていました。簡単に手に入ったため、そばのつなぎにも使われるようになったのです。



●ササの香りがさわやかな「笹寿司」

妙高市などでは、お盆や祭りの時には「笹寿司」がつくられます。笹寿司とは、ササの葉の上にすし飯をのせ、タケノコやワラビ、ゼンマイなどの山菜を味つけたものや、油揚げ、ダイコンのみそづけ、卵焼き、くるみなどをのせたものです。ササの葉の香りがさわやかで食欲をそそります。





むこ投げ

◆新婚の幸せを願う「むこ投げ」

「いーち、にーの、さーん!」。男性たちにかつがれたむこが勢いよく雪の中に投げこまれると、歓声と笑い声が響きわたります。「むこ投げ」は、十日町市松之山の湯本地方で毎年1月15日に行われる祭りです。前の年にこの地方から嫁をもらった新婚のむこを、村の青年たちが背負って松之山温泉薬師堂まで運れていきます。みんなでお神酒をいただいた後、むこを肩上げし、かけ声をかけながら5メートルほどの高さから雪の中へ投げ落とすのです。

雪の下で待っていた嫁が、雪まみれになった夫を気づかい雪を払いのけます。まわりの人々は歓声をあげながら、若い2人のきずながより強くなることを願うのです。



2人で松明を持ち火をつけます。



みんな雪っ娘! 真冬のすまじり

むこ投げが終わると、「雪の神」のすまじりのはじまりです。正月に飾られた門松やしめなわ、お礼、誓初めなどをもちよって高い塔をつくり、火をつけます。

燃え終わったら、その灰と雪を混ぜてすみをつくり、「おめでとう」といいながら、手当たりしだい、お互いの顔に塗り合います。新年の無病息災や家内安全、商売繁盛を祈るための行事ですが、あちこちで笑い声や叫び声が聞こえる、楽しい祭りです。

なぜ?

どうして?

どうしておむこさんを投げるの?

「むこ投げ」は、約300年前から松之山地方に伝わる小正月（1月15日）の行事です。その由来は、よそ者（よそ者）に村の娘をとられた青年たちの顔いせが形を養えたものとか、嫁を連れ出すことを禁じたことから生まれたとかいわれています。現在では、若い2人を祝福し、その幸せを願う行事として行われています。





綾子舞

● 赤い衣装が美しい「綾子舞」

あざやかな赤い振袖に、「ユライ」と呼ばれる赤い帯を頭にまいた女性たちが、りりしく美しく舞います。「綾子舞」は柏崎市女谷に伝わる民俗芸能で、京都の北野神社の巫女であった文子が舞ったものが伝わったとする説や、上杉房隆の奥方である綾子が伝えたとする説があります。衣装や振り、京で歌舞伎の創始者となった「出雲のお国」が隔っていた初期の歌舞伎の面影を色濃く残し、国の重要無形民俗文化財に指定されています。



綾子舞は、こんな踊り

「綾子舞」は、女性による「小歌謡」と男性による「囃子舞」(狂言)の3種類から構成されています。毎年9月第2日曜日に、綾子舞会館周辺広場を主会場に一般公開されます。

赤い振袖姿が
目を引きぬ



小原木踊

小歌謡

はなやかな室町文化を表現する「小歌」に合わせた、「小原木踊」「常陸踊」「小切子踊」など11種類の踊りです。女性が赤い振袖姿で、足拍子を取りながら舞う姿は、素朴ながら優雅さがあります。踊りの衣装や振り付け、はやしに三味線が入らないことなどは、出雲のお国がはじめたとされる歌舞伎の踊りにきわめて似ているといわれています。



翁さし舞

電子舞

まわりの人たちのはやしにのって舞う「電子舞」。はじめに「何々舞を見さいな」とはやすのが特徴です。電子舞には「恵比寿」「亀の舞」「狸々舞」「翁さし舞」など22種類の「電子舞」があり、男性が1人で舞います。

狂言

「狂言」とは室町時代に成立したせりふ劇で、「能」とも深いかかわりをもちます。女谷には、江戸時代の中ごろ、京都の狂言師が夫婦で訪れた際に伝えたといわれています。綾子舞の狂言は「三楽の小戯治」「漁老すくい」「烏帽子折」など33種類あります。ほかでは見られない曲目を伝えており、「小歌謡」同様に初期歌舞伎のおもかげを残しています。



三楽の小戯治



佐渡おけさ

● 有名な民謡の1つ「佐渡おけさ」

新潟県には「小木おけさ」「柏崎おけさ」など「おけさ」のつく民謡が多くあります。おけさの由来は、おけさという女性を歌った、とか、おけいという芸妓が歌い出した、などさまざまあります。おけさ節の中でも「佐渡おけさ」はもっとも有名です。佐渡市に伝わる盆踊り歌で、一説には、九州の天華の船乗りたちが歌っていた「ハイヤ節」が伝わったともいわれています。

佐渡おけさ

ハアー 佐渡へ (ハ アリヤサ)
佐渡へど 華木もなびくヨ
(ハ アリヤアリヤ アリヤサ)
佐渡は客よいか 住みよいか
(ハ アリヤサッ サッサ)

果いと言うたどて
件かりよか佐渡へ
佐渡は四十九里 歳の上

雪の新潟 吹雪に暮れて
佐渡は寒たかよ 灯が見えぬ

佐渡と越後は 柿うしや居く
橋を架けたや 船橋を

具野の舞殿 松風吹えて
袖に涙の 村時雨

佐渡の岬の 四所五所程
彼は越後に 置は佐渡に

おけさ踊りに ついさうかど
月も隔るよ 佐渡の夏

蔵む相川 夕陽に染めて
浪の戯れる 春日崎